

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

事業所名	夢門塾若狹野	公表日	2026年7月	※在籍従業員6名の回答
------	--------	-----	---------	-------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	用途に応じて場所替えをしている。(運動室や相談室の活用等)	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2	事前に立てている計画をもとに職員体制も都度工夫して構成している。	スポット受け入れをした場合など、利用日によって必要な場合もある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	児童の視界などを考慮しながら、職員で試行錯誤している。	視覚支援の提示をもう少し増やしていくべきだと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	毎朝、職員全員で清掃をおこなっている。	自由運動時の空間がやや狭いと感じるため、工夫が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	多目的室から離れた所に個室(相談室)があるため、落ち着いて過ごすことができる。	クールダウンのための居室が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	まずは実行してみしてから、都度改善して対応している。	まだ取り組みが実行されていないため、回答者は把握できていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	今回より実施のため、今後より定期的な実施をおこなっていく。	オープンから半年が経過し、今回より実施のため。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	必要に応じて保護者にも情報共有している。	取り組みについて、把握できていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	外部評価を今後、取り入れて業務改善につなげる。	ラウンドが実施されたこともあったが、継続はできていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	毎月一回以上、開催されている。	定期的な研修に加え、関係機関からのご案内の研修にも進んで参加できるようにする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	都度共有している。文面での共有機会もある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1	都度情報提供したり、文面での発信もある。	固定化されており、生活の中の課題が計画書の目標と異なる事例がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	必ずカンファレンスを実施し、職員全員が計画・支援に携わっている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	職員会議や当日の朝礼時に共有および実行をしている。	新環境での生活の意識が優先になることも。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	様々な視点からの観察はできている。	より工夫した支援は可能である為、今後展開していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	今回、ペアトレーニングも実施している。個々に基づいた支援だけではなく誰しものが必要な事柄にも触れている。	地域支援・地域連携の機会も今後増やしていくことができるようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	職員会議の際、それぞれの意見を持ち寄っている。	引き続き職員間での立案を徹底する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	週ごとにプログラムを変えたり同じ内容でも難易度を変えたりしている。	どうしても提供内容が偏ってしまうことがあるため、工夫する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	その時々の様子で、支援方法を変えたりしている。	個別活動が必要としている児童が多くいる為、現状よりは増やす必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼時に確認・役割分担し、日誌にも共有事項を記入することを徹底している。	事前準備、活動内容の修正等は引き続き徹底しておこなうことができるように時間をとる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	支援について職員間でも話し合いをおこなっている。	土曜と祝日での振り返りは可能だが、平日はなかなか振り返りの時間を設けることが難しい為、今後は翌日の実施等を行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	専門支援および通常支援の記録を徹底している。	引き続き詳しい記録を残すよう意識する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	時期や状況を把握しながら実行している。	モニタリングの内容を職員間でも都度共有している為、今後もそのような機会をカンファレンス以外でも設ける。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	ガイドラインに基づいた支援はできている。	ガイドラインの基本や、意図をもう少し詳しく知っておくべきである。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	利用者に問いかける場面は多く、利用者本人で活動内容等を決める機会も設けている。	活動内容が利用者に左右されすぎないように注意は必要である。
関係機	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	児童発達支援管理責任者による担当者会議も適宜実施している。	日程によってはその利用者との関係がまだ浅い職員が参画することもある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	関係機関連携および保育所等訪問支援の実施を事業所間でおこなっている。	学校以外での連携も増やしていくことができるようにしたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	利用者の情報等は都度全体を通して共有し、連携している。	時々情報伝達に時間を要することもあるため、こまめな連携が必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	児童発達との連携をおこない、情報共有をおこなっている。	児童発達支援以外の機関との連携もあればよい。

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	6	主に低学年児童への支援・情報提供を進めている。	事業所からまだ卒業された方がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5	地域で開催される会議等は数回出席している。	児童発達支援センターの職員に助言を受けることはあるが、研修の機会は設けられていないため、今後検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこともと活動する機会があるか。	1	5	事業所間での合同イベントを実施している。	外部と関わる機会は少ないため、今後おこなっていく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4	R 8 年6月より初めての参加。	今後も実施されたときには参加をしていくが、人数制限もあり管理者、児発管のみになってしまうため、内容の共有を行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	連絡帳等でも密接にとっている。	一部にとどまっていると感じる場面がある。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	R 8 年 5 月よりペアレント・トレーニングを実施している。	今後も定期的に実施できるよう展開していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時等に細かく説明している。随時問い合わせも受け付けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	事業所のニーズではなく、利用者のニーズに合わせた対応・工夫をしている。	保護者様のご意見およびご本人の意見を聞いて、最善の支援ができるように引き続き工夫していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	事業所ならではの内容にも同意を得て実行している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	定期的な相談機会のみならず、必要に応じて問題解決に向けて考えることができるよう工夫している。	実施はしているが、的確な提示やその機会が少ない。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	オープン前に保護者会実施。施設見学时に、利用される児童やきょうだいも来所され、一緒に遊ぶ機会を設けた。	開設時にて説明会や保護者会を実施したが、機会は少ないため今後積極的に実施していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	迅速な対応をおこなうよう心掛けている。	貴重なご意見をもとによりよい支援へ今後ともつなげられるようにする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	毎月決められたタイミングで投稿・発信している。	行事に対する持ち物や一部スケジュール変更が伴うこともあるため、随時情報共有を徹底する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	利用者情報のみならず肖像権等にも気を付けた取り扱いを徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	言葉の表現や伝達の仕方にも気を付けて対応している。	伝達内容に相違がないよう職員間での共有を今後も徹底する。
非 常 時 等 の 対 応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	自治会の会合にて挨拶をさせていただいた。	合同イベントや交流機会を増やしていきたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	事業所内にも各マニュアルを設置しており、状況に応じた対応を取ることができるような工夫をしている。	研修機会での実施はあるが、少ない為、事業所単体での実施も行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	R 8 年 6 月に実施。避難場所や避難方法、経路や消火器の取り扱いについて学習した。	機会が少ないため、今後入れていく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	事前に保護者より情報共有いただいている。薬の処方では処方を認める書類へのサインもおこない、慎重に進めている。	ご本人情報が変更することもあるため、都度更新していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	その都度、活動実施前に保護者に聞き取り調査している。	アレルギーの把握は文面でも情報共有の際でも把握できているが、医師の指示書に基づく的確な対応も必要である。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2	会社既定の安全計画を使用している。定期的な施設の安全点検も実施している。	作成しているが、職員間での内容周知は少ないため、都度共有する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	安全計画に基づいた取り組みについては、ご契約時等で情報共有をおこなっている。	周知の機会は少ないため、時間を設ける必要性あり。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットについてはその日のうちに報告および記録し、職員間での共有もおこなっている。	再発防止のための取り組みも今後強化していきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	研修機会等もあり、会議の際にも情報共有および対策について考える機会を設けている。	職員会議時での事例の共有等をこれまで以上に増やす。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	個々に応じて都度、保護者との連携をとりおこなう。	取り組みについては職員周知を行っていく。
保護者様評価、自己評価についてまとめ						
事業所として実施ができていると感じていた部分が、保護者様の視点ではなかなか明確な実行ができていない項目も見つかったため、それらの改善を今後展開していく。また、的確に実施ができている内容についても把握できたため、今回見つかった改善点をもとに事業所としての課題を今一度考えて、業務の中でも意識して進められるよう職員間で共有・実行していく。						